

経営比較分析表（平成29年度決算）

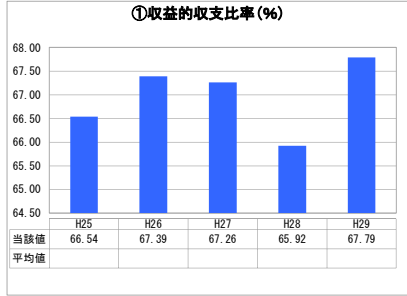
兵庫県 相生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	0.15	100.00	2,869

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,107	90.40	333.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
46	0.01	4,600.00

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



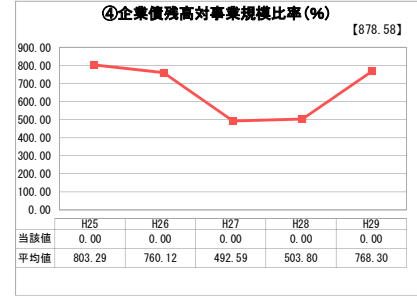
「単年度の収支」



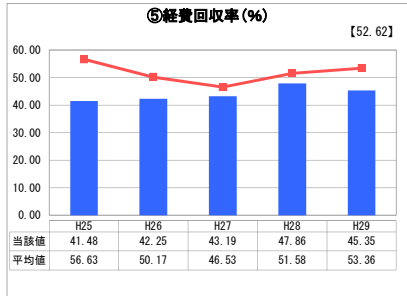
「累積欠損」



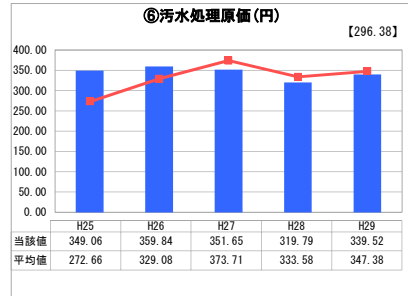
「支払能力」



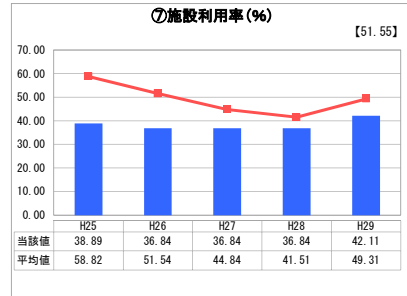
「債務残高」



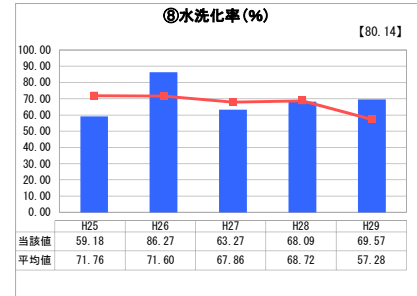
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

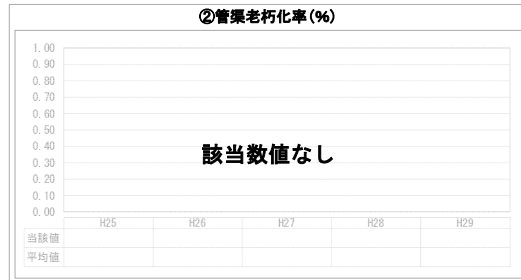


「使用料対象の捕捉」

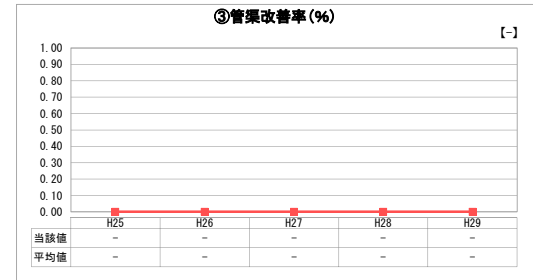
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

下水道への接続が困難な箇所に対して実施する事業のため、対象人数が少なく事業も非常に小規模である。維持管理業務については委託により経費を抑えているが、近年の節水意識の高まりにより水量の減少傾向もあって、使用料収入は伸び悩んでいる。このため費用の十分な回収には至っておらず、その度合いも類似団体よりやや低い傾向あり、結果として一般会計からの繰り入れによる支援が不可欠な状況となっている。

2. 老朽化の状況について

供用を開始してからまだ年数が浅いため、適正な維持管理を継続することにより引き続き利用可能であると考えられる。

全体総括

対象が限定される事業のため、水洗化率の向上による規模の拡大にも限界があり、将来の更新費用の確保を含め、使用料体系の検討を含めた経営改善の取り組みを続けていく必要がある。一方で本事業は地理的要因により集合処理事業を採用できなかった箇所を採用した側面もあるため、使用料体系を含めた経営改善については、他事業も含めた市の汚水処理事業全体で検討し、実情を踏まえたうえで「経営戦略」を策定して取り組んでいく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。